

レンゴグループの取組み

2024年11月22日 経営説明会

レンゴ株式会社



本文書に含まれる情報の全部又は一部を無断で複製、転用することをご遠慮ください。
© 2024 Rengo Co., Ltd. All rights reserved.

業績報告

取組み

2025年3月期業績と事業環境	-----	3
Vision115の最終年度として	-----	5
ヘキサゴン経営		
価格改定の取組み(板紙・紙加工関連)	-----	6
価格改定の取組み(軟包装関連・重包装関連)	-----	7
新たな企業価値の創出につながる投資	-----	8
一貫体制による開発力の強化	-----	10
既存事業の基盤強化	-----	11
成長市場への投資	-----	12
環境経営の推進		
GHG排出量の削減	-----	13
DXの推進		
RFIDによる原紙管理の新たな展開	-----	15
SXの推進		
通販トータルソリューションの新たな展開	-----	16
社会貢献		
海の保全と繁栄の両立	-----	17
企業価値の向上に向けて	-----	18

2025年3月期業績と事業環境

第2四半期業績

	24/9期 期初予想	24/9期 実績	(億円) 差異
売上高	5,000	4,951	△ 49
営業利益	210	198	△ 12
経常利益	220	219	△ 1
親会社株主に帰属する 中間純利益	170	189	19

概況

- 売上高は、アールエム東セロなどの新規連結の寄与、円安の影響による外貨建て売上高の増加もあり、期初予想をほぼ達成。
- 営業利益は、需要回復の動きが想定よりも緩やかだったことに加え、固定費の増加、原料価格の上昇もあり、期初予想に届かず。
- 親会社株主に帰属する中間純利益は、アールエム東セロの新規連結に伴う負ののれん発生益の計上が押し上げ、期初予想を超過。

事業環境



段ボール

- ▲ 需要は、幅広い分野で底堅く推移するも、期初の想定には届かず
- ▲ コスト削減効果は想定以上も、インフレで経費が増大



軟包装

- インバウンド、イベント関連需要が回復
- ▲ 新規連結に伴う一過性費用の影響



重包装

- 工業樹脂製品が好調に推移
- ▲ 石油化学関連向けは弱含み



海外

- 新規連結
(米国 コンセプト・パッケージング社ほか)
- 軟包装の一部で国内から生産を移管
- ▲ 欧州の景気低迷により重量物包装事業の採算が悪化

2025年3月期業績と事業環境

通期見通し

板紙・紙加工関連事業

売上高に占める構成比(24/9期)..... 52%



(営業利益の増減要因別 期初予想比での傾向)

要因	通期での見通し
数量要因	段ボール生産量(通期)前年比+3.0%の想定に対し、上期は同+0.2%と出遅れ
価格要因	価格改定の寄与は下期から徐々に反映されてくる見通しも、改定のタイミングの後ずれや想定以上のミックス悪化が生じる可能性も
原料価格	上期の段ボール古紙価格は想定比1円/kg程度の高値、下期も強含みが継続か
エネルギー価格	原油価格低下のメリットはあるも、円安のデメリットで相殺され想定どおり推移(原油価格感応度)1ドル/bblにつき営業利益2億円/年、ただし発現には約半年のタイムラグ(為替感応度)1円/USDにつき同2億円/年
固定費・減価償却費	人件費、減価償却費の増加は想定どおりも、その他の経費はインフレの影響から上振れ
コスト削減	製紙原単位改善をはじめ、想定以上のコスト削減効果が通期で寄与

軟包装関連事業

売上高に占める構成比(24/9期)..... 18%



新規連結(アールエム東セロ)の取得関連費用のマイナスは一過性、出遅れからの挽回を目指す

重包装関連事業

売上高に占める構成比(24/9期)..... 5%



石油化学関連向けの需要減、固定費等の上昇は懸念されるが、工業樹脂製品は好調に推移

海外関連事業

売上高に占める構成比(24/9期)..... 22%



ドイツを中心に景気低迷の影響長期化を懸念されるが、軟包装や重量物包装での新規連結でカバー

その他の事業

売上高に占める構成比(24/9期)..... 3%

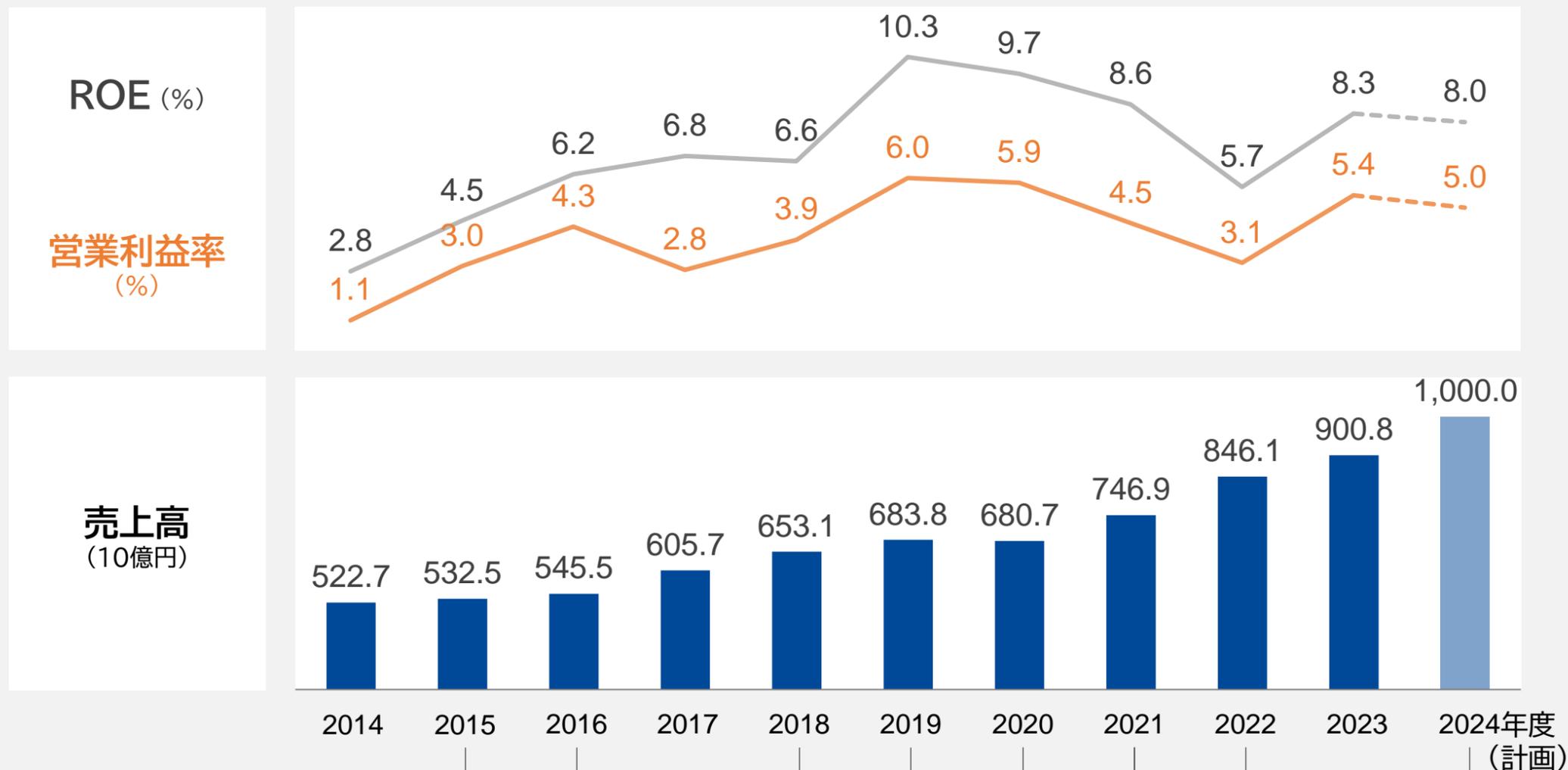


運送事業では固定費の増加があるも、運賃の改定により増益基調を維持

Vision115 (最終年度:2024年度)の最終年度として

連結業績の推移

グループ化した企業のPMIが進み、連結業績に貢献



主なM&A

- サン・トックス
- トライウォール社
- トッパンコンテナ (現・RGコンテナ)
- トライコー社
- 金羊社
- 大興製紙
- タキガワ・コーポレーション
- TPS社
- アールエム東セロ

パッケージプロバイダー



戦略的テーマ

全てのコア事業において**ヘキサゴン経営**の一角にふさわしい規模と収益性の確立を図る

次期ビジョン

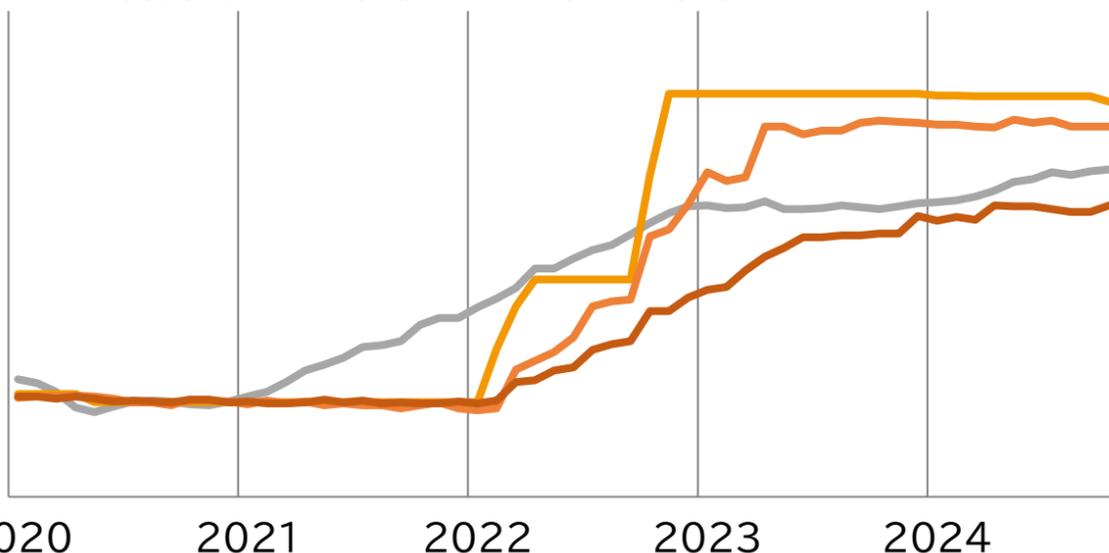
2025年度～2029年度を対象期間とし、公表に向けて策定中

ヘキサゴン経営 価格改定の取組み(板紙・紙加工関連)

企業物価指数の推移

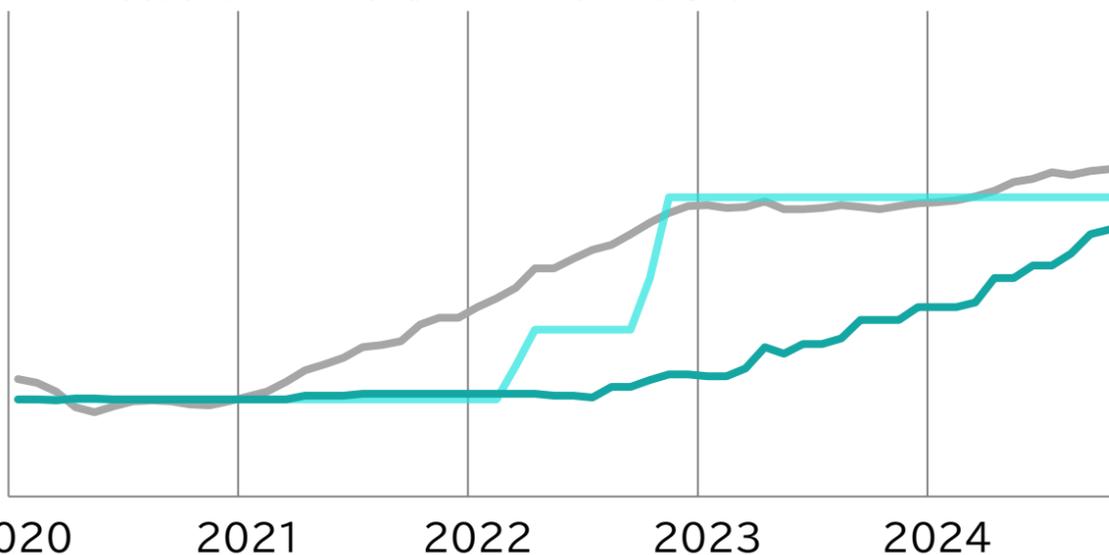
現在、パッケージ製品の価格改定を年内決着に向け推進
価格の重要性を意識した営業活動をより一層充実させる

2020年総平均 = 100(数値は2024年10月時点)



段原紙 130.7
(ライナ:中芯 = 6:4とした加重平均)
段ボールシート 128.1
総平均 123.7
段ボール箱 120.0

2020年総平均 = 100(数値は2024年10月時点)



総平均 123.7
白板紙 120.8
紙器* 117.5
*指数採用品目の「紙箱」に相当

出所:日本銀行

取組みの背景

- 原燃料価格の高止まり
- 物流コストの高騰
- 賃上げによる労務費の上昇
- 環境対策や労働環境改善のための設備投資
- 協力会社からのコストアップや賃上げに伴う価格改定の要請の受け入れ等



具体的取組みと目的

段ボール・紙器製品

発表日	2024年3月1日
改定日(発表ベース)	2024年4月1日
改定幅	+10%以上

コート白ボール

発表日	2024年11月18日
改定日(発表ベース)	2025年1月1日
改定幅	+10%以上

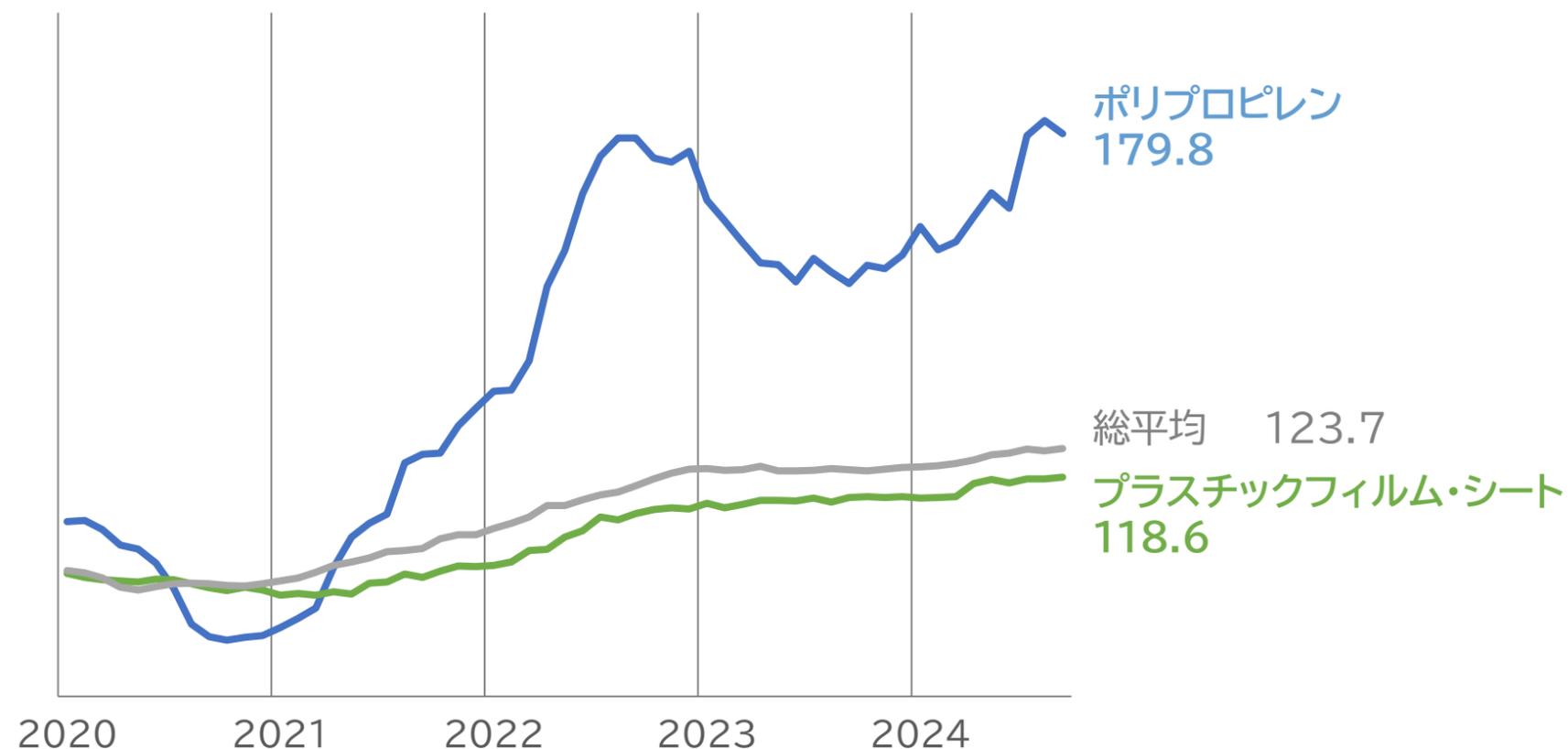
- 発表日以降、得意先に対し個別に背景を説明し、理解を得る
- 得意先の予算制約等も踏まえ、価格改定時期や改定幅を含む納入条件について交渉
- バリューチェーン全体にわたるコスト構造の変化への対応を通じ、成長と分配の好循環の実現を目指す

ヘキサゴン経営 価格改定の取組み(軟包装関連・重包装関連)

企業物価指数の推移

昨今はナフサ以外のコスト上昇も進む

2020年総平均 = 100 (数値は2024年10月時点)



出所:日本銀行



取組みの背景

- 更なる地政学リスクの高まり
- 円安傾向の長期化
- 物流費の上昇
- 継続的な賃上げによる労務費の上昇
- ナフサおよび樹脂価格の上昇

具体的取組みと目的

- フィルムから製品にわたりコストアップの転嫁を進める
- バリューチェーン全体にわたるコスト構造の変化への対応を通じ、成長と分配の好循環の実現を目指す

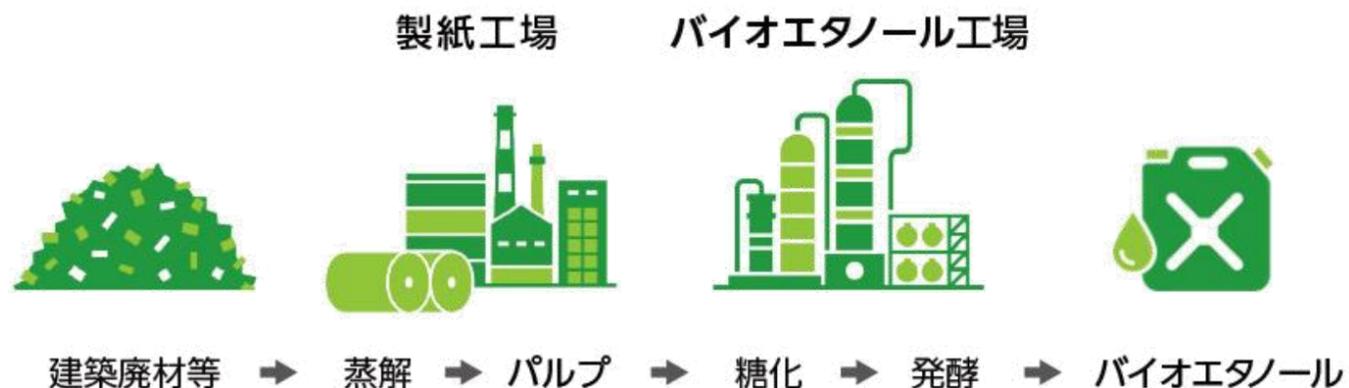
ヘキサゴン経営 新たな企業価値の創出につながる投資

大興製紙株式会社における第二世代バイオエタノール生産実証事業

概要

- 大興製紙(静岡県富士市)のパルプ生産設備とBiomaterial in Tokyo(福岡県大野城市)のバイオ技術を活用し、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)からの支援も得て、第二世代バイオエタノールの商業生産・事業化を目指す

本事業のイメージ



- 大興製紙では並行して老朽化した1号・2号抄紙機(特殊紙、クラフト紙)を停機するとともに、5号・6号抄紙機(クラフト紙等)へ生産を集約する
- クラフト紙を使用する環境対応型パッケージ開発やフレキシブルパッケージにおける大興製紙のクラフト紙利用拡大も計画

タイムライン

年月	内容
2024年 2月	NEDOから委託および助成を受ける内容が確定し、実証事業を開始
4月	株式会社Biomaterial in Tokyoを子会社化
2027年度以降	商業生産を開始(見込み)、目標生産量=年間2万kl

大興製紙株式会社 概要



所在地	静岡県富士市上横割10
設立	1950年
事業内容	クラフト紙・特殊紙の製造および販売 クラフトパルプの製造および販売 産廃・一廃中間処分業

株式会社 Biomaterial in Tokyo 概要

所在地	福岡県大野城市川久保1-3-22
設立	2006年
事業内容	バイオマスに関する技術開発、製品製造、 コンサルティング業務

ヘキサゴン経営 新たな企業価値の創出につながる投資

朋和産業株式会社R&Dセンターの開設



概要

- 同社習志野工場(千葉県船橋市)に隣接する土地1,028m²を新たに取得し、R&Dセンターを建設
- レンゴグループの中でも軟包装を得意とする各社の開発スタッフにも開放、環境に配慮した製品の開発をより一層加速させる
- 2024年10月完成

レンゴー 武生工場リニューアル



概要

- レンゴー 武生工場(福井県越前市)老朽化が進んだセロファン製造設備を順次更新し、品質の向上を図るとともに製膜機を増設
- 環境面から高まる生分解性素材へのニーズに応える
- 2028年1月、新製膜機の営業運転開始を予定

ヘキサゴン経営 一貫体制による開発力の強化

アールエム東セロのPMI(post merger integration)推進

- 2024年4月、サン・トックスと三井化学東セロのパッケージソリューション事業が経営統合し、新会社アールエム東セロが発足
- ポリオレフィン系フィルムや発泡シートにおけるフロントランナーとして供給体制の充実、開発力の強化を図る
- パッケージにおけるサーキュラーエコノミーの進展に、パッケージプロバイダーとしてリーダーシップを発揮する

当社・アールエム東セロ・朋和産業の連携

印刷済み廃棄PPフィルムのマテリアルリサイクル

- 廃棄PPフィルムを脱インキし、マテリアルリサイクルする技術開発を推進



脱インキ

成膜

用途展開



アールエム東セロ株式会社 概要

本社所在地	東京都千代田区神田美土代町7
設立	1929年
事業内容	食品・飲料・日用品・梱包資材等に使用される包装用フィルム、発泡シートの製造・販売

モノマテリアル*OPPフィルムの開発

- アールエム東セロ、朋和産業、レンゴの三社で連携し、モノマテリアルなフィルムを新規に開発
- 食品、飲料向け等をターゲットに環境対応製品として推進

* モノマテリアル
「単一素材」という意味で、プラスチック製品のリサイクルの選択肢を広げることができるため近年注目されている



ヘキサゴン経営 既存事業の基盤強化

主な設備投資

年々募る夏の暑さ対策をはじめ、従業員の働く環境を改善する投資を推進

直営段ボール工場のリニューアル

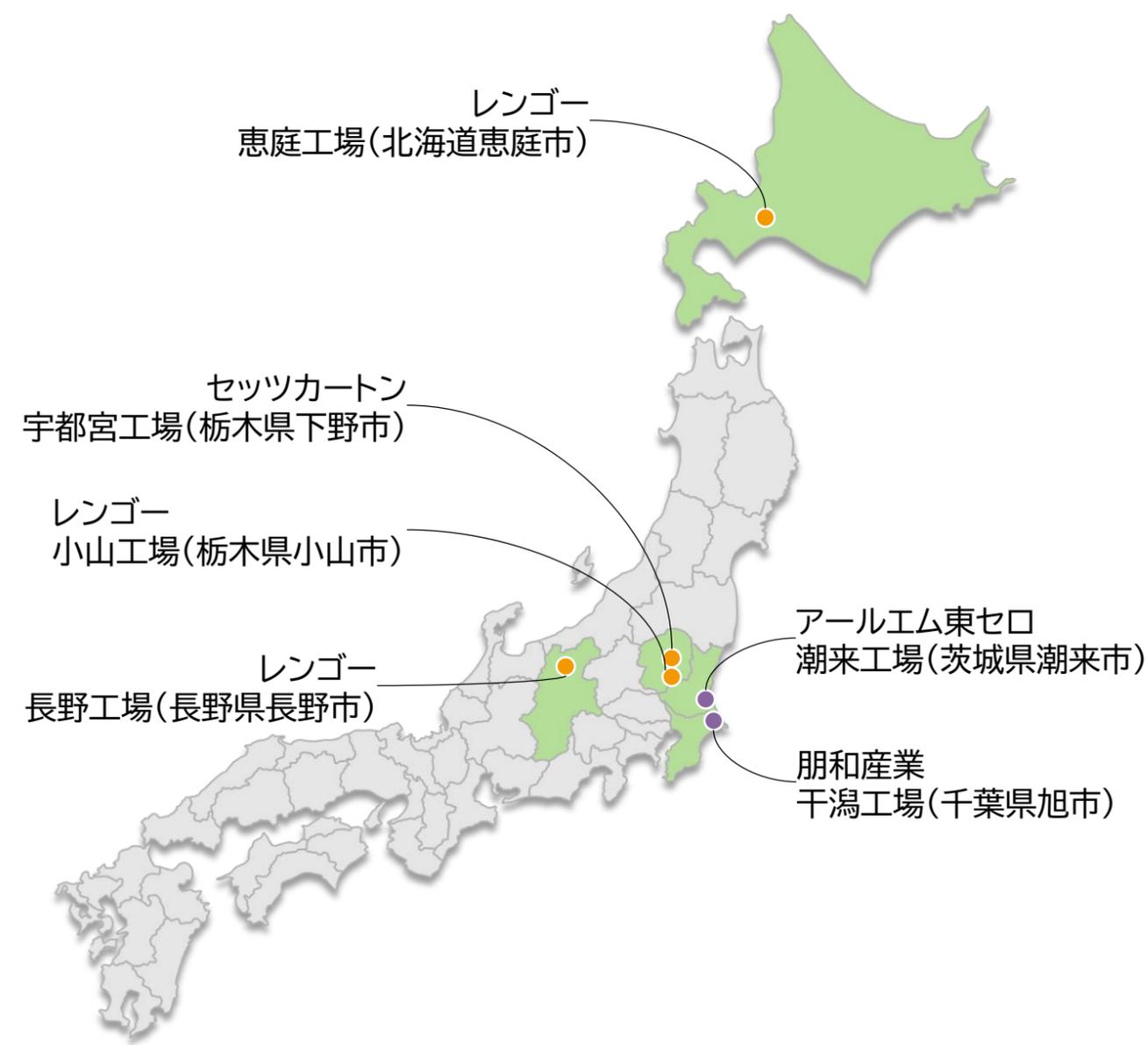
工場名	所在地	内容	完工年月
●レンゴー 恵庭工場	北海道恵庭市	原紙倉庫増設	2024年12月
●同 小山工場	栃木県小山市	倉庫増設、生産設備増強	2025年1月
●同 長野工場	長野県長野市	倉庫増設、事務所リニューアル	2025年2月

軟包装工場の設備更新

工場名	所在地	内容	完工年月
●アールエム東セロ 潮来工場	茨城県潮来市	OP5号機フィルム回収工程更新	2024年4月
●朋和産業 干潟工場	千葉県旭市	グラビア印刷機更新	2024年4月

グループ段ボール工場の設備更新

工場名	所在地	内容	完工年月
●セツツカートン 宇都宮工場	栃木県下野市	コルゲータ増速改造	2024年5月



ヘキサゴン経営 成長市場への投資

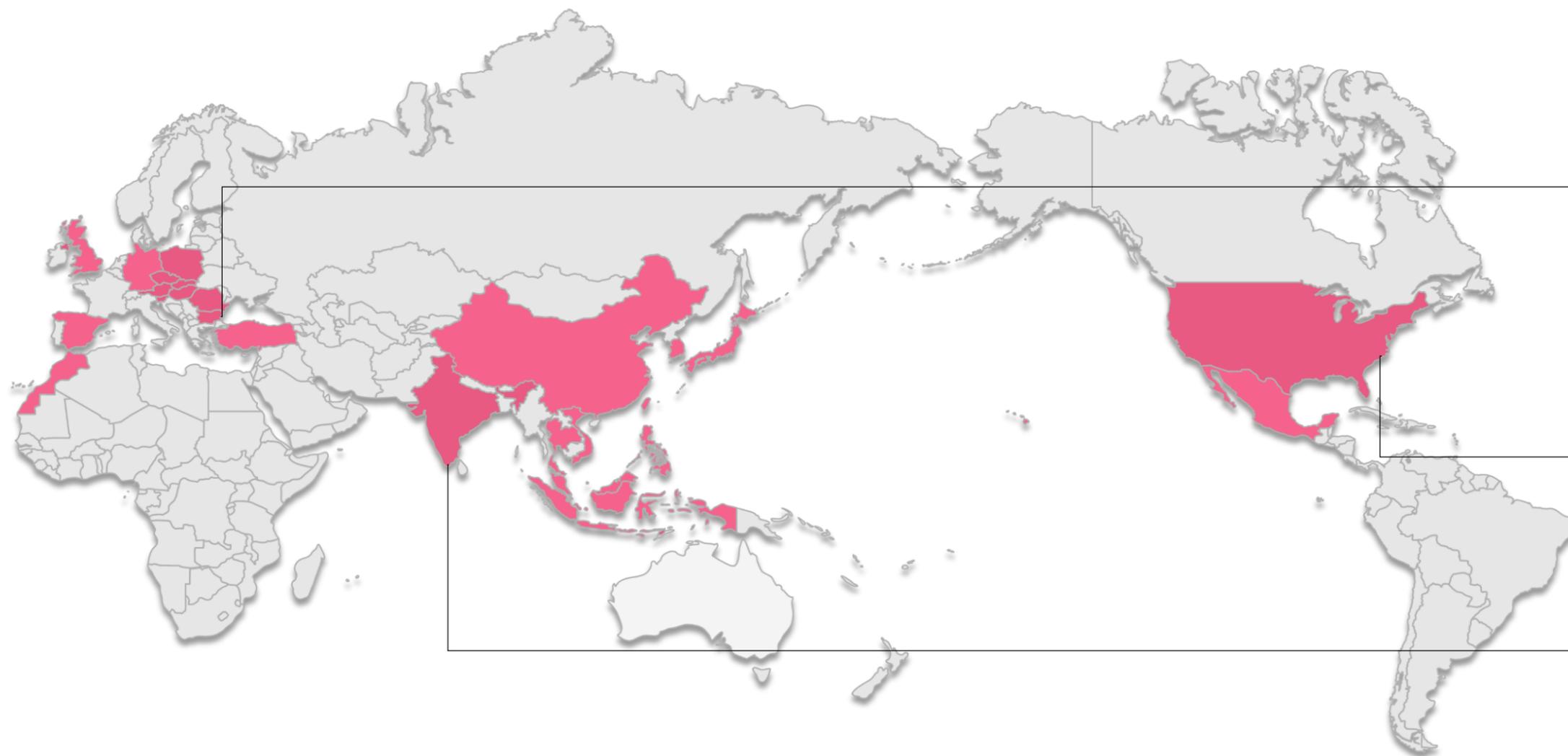
海外事業の拡大と収益向上に向けた課題と取組み

- 今後の成長に向けた原動力としての新たな事業展開
- 国内外の既存ネットワークの有効活用による取引拡大と現地化の推進
- 「選択と集中」をキーワードとした経営資源配分の見直し
- グローバルなフィールドに対応した人材育成

海外グループ企業

208工場 52拠点

(2024年9月末現在)



2024年度の主な取組み

東欧

TWブルガリア

- 貼合工場の新設を計画(2026年5月稼働開始予定)
- Tri-Wallトルコ、Tri-Wallルーマニアなど周辺のファブリケーターへシート・ケースを供給

北米

Concept Packaging社

- トライウォール社が同社持分を取得(2024年8月)

インド

ヴェルヴィン・レンゴー・コンテナーズ

- 新工場が本格的に稼働を開始(2024年9月)

環境経営の推進 GHG排出量の削減

GHG排出量削減につながる主要な投資

完工年度(予定)	拠点・設備	削減量	投資額
2023	レンゴー 利根川事業所ガスエンジン	0.9万トン	35億円
2024	大興製紙 5号抄紙機改造	2.0万トン	65億円
2025	レンゴー 金津工場燃料転換(石炭→LNG)	13.0万トン	95億円
2026	レンゴー 八潮工場第2バイオマスボイラ	2.5万トン	90億円
	丸三製紙 燃料転換(石炭→LNG)	4.8万トン	95億円
2027	大興製紙 バイオエタノール製造設備	0.9万トン	155億円

取組みのねらい

GHG排出量削減を競争優位性の向上、市場機会の獲得につなげる



金津工場工事中の様子(2024年9月)

石炭使用ゼロの実現 (LNGへの燃料転換)

2026年

レンゴー 金津工場

2027年

丸三製紙

2030年度

2013年度比

46%削減

SBT認定取得

CO₂排出量削減目標

環境経営の推進 GHG排出量の削減

取組みの背景

SBT認定

TCFD開示

パリ協定

比較可能かつ正確な
GHG排出量の把握が必要

SSBJ開示基準

2050年
ネットゼロ

Scope 1

Scope 3

Scope 2

具体的な取組み

「段ボールのCFP*算定ルール」の策定開始

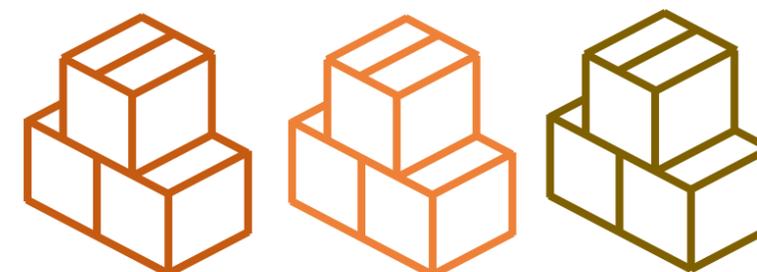
段ボール各社がCFP排出量が算定可能となるよう、全国段ボール工業組合連合会にて算定のためのルール策定に着手

* CFP (carbon foot print)
商品やサービスのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO₂に換算した数値で表示すること

2022年 業界値の算出



2024年～ 各社個別での算定に展開



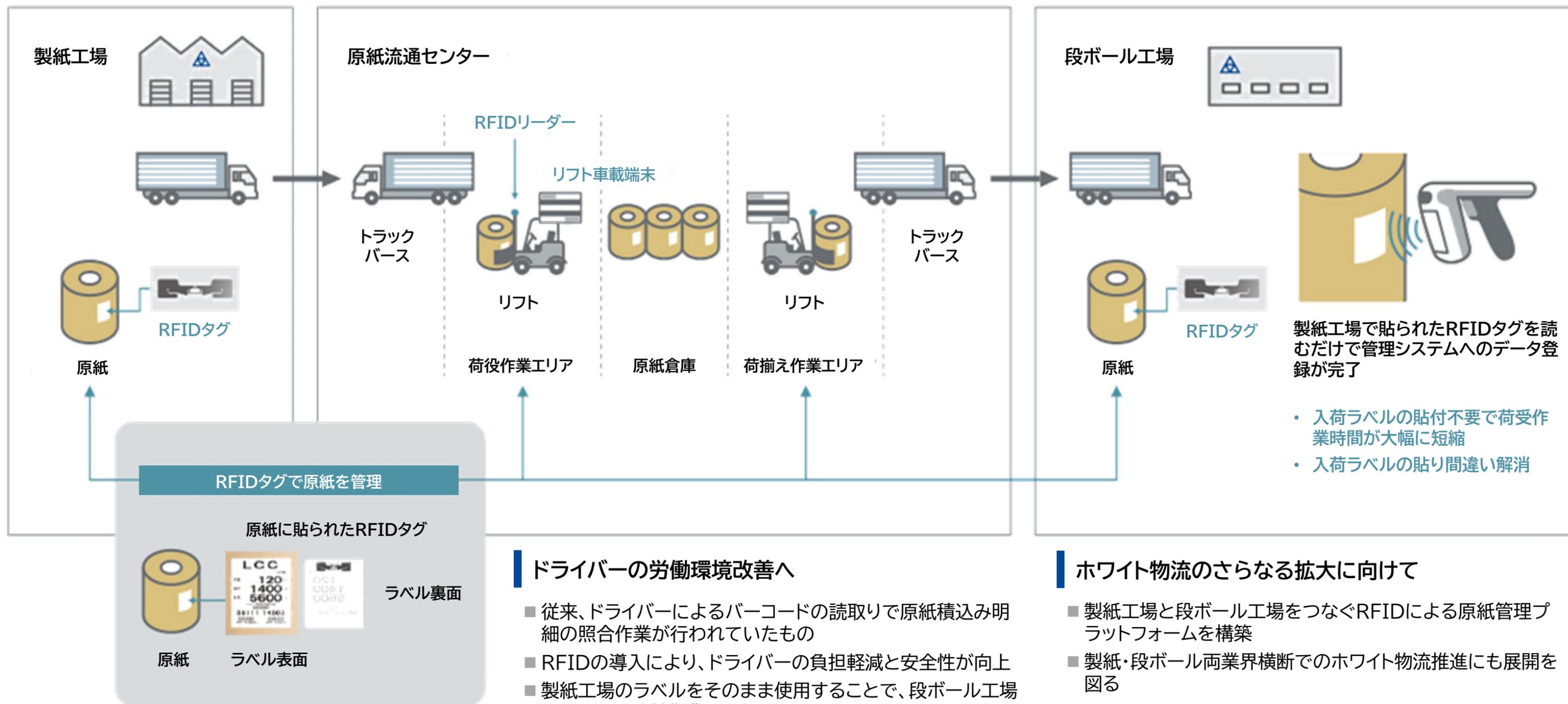
「一次データ流通基盤」共同実証実験

GHG排出量の算定に必要な一次データを共通のプラットフォーム上で流通させ、GXやDXによるGHG排出量の削減を推進する業界をまたいだ実証実験に参画

DXの推進 RFIDによる原紙管理の新たな展開

当社におけるRFIDによる原紙管理の全体像

ドライバーの負担軽減と安全性の向上を図り、製紙・段ボール両業界横断でのホワイト物流推進を推進



SXの推進 通販トータルソリューションの新たな展開

S-DEC(Smart Digital EC)

包装資材や包装機械などのハード面に加えて、業務効率化やメンテナンス、デザイン、設計、販促といったソフト面についてもサポートし、お客さまのEC分野をスマート化していくレンゴールのトータルソリューション



フロント業務
(マーケティング)



商品企画 ECサイト制作 仕入れ プロモーション

バックエンド業務
(フルフィルメント)

受注処理 在庫管理 出荷梱包 配送 カスタマーサポート



パッケージや
包材を起点として

Start

配送ケースへの設計での工夫や半自動機械のラインアップなどでのサポート

Sales

当社デザイン・マーケティングセンターの商品開発企画や通販向けデジパケによる販売促進

Smart

資材の集約や効率化、環境負荷の低減を通じ、社会課題の解決にも寄与するソリューション

通販物流のSX
(Sustainability Transformation)
をサポート

成長市場でのサステナビリティトランスフォーメーション(SX)の推進により競争力を高め、持続可能な成長を実現する

社会貢献 海の保全と繁栄の両立

ブルーオーシャン・イニシアチブの活動

当社は、2023年4月にスタートした、海の保全と繁栄の両立を目指したアクション・プラットフォームである一般社団法人ブルーオーシャン・イニシアチブ(以下、「BOI」)の活動に参画しています。

BOIでは、2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)における「ブルーオーシャン」パビリオン内でのブース出展のほか、産官学民が交流して海洋保全や海洋資源の活用などを議論し具体的なアクションに移していく活動プログラムが計画されています。

BOIの活動への参画により、さらに多くのパートナーとの共創によって海の保全と繁栄の両立を図ってまいります。



©ZERI JAPAN

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)に特定非営利活動法人ゼリ・ジャパンが出展する「BLUE OCEAN DOME」のドームCに使用する紙管原紙を提供します。

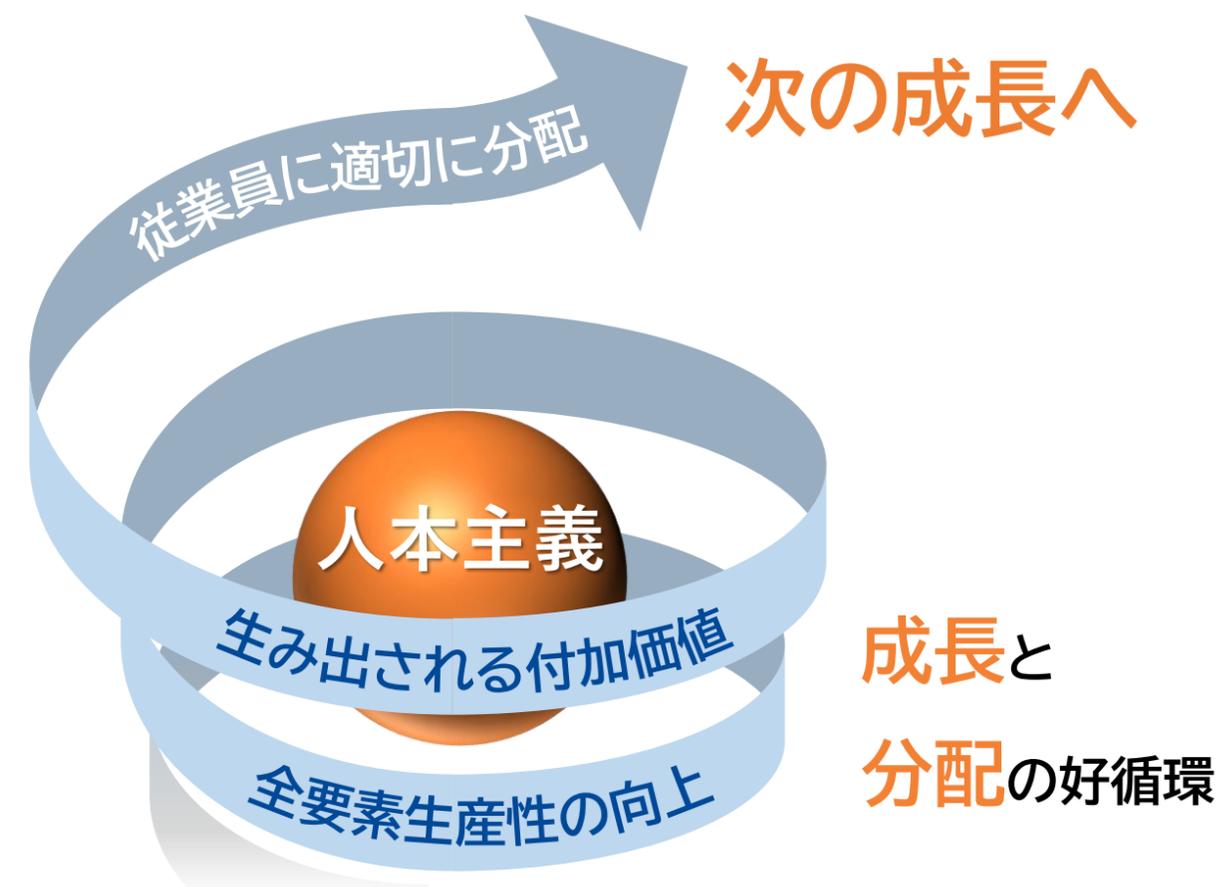
企業価値の向上に向けて

「Vision115」(2020年度～2024年度)



「パッケージプロバイダー」として世界でベストワンの総合包装企業集団を目指し、創業115周年を迎える2024年度を最終年度とする中期ビジョン、「Vision115」の達成に向け、全てのコア事業において、ヘキサゴン経営の一角にふさわしい規模と収益性の確立を図る

成長と分配の好循環の実現



人本主義を経営の柱に据え、全要素生産性の向上を図ることにより生み出される付加価値を適切に分配し次の成長につなげる「成長と分配の好循環」を持続的に実現する



“The **best** packaging provider
in the **world**”

レンゴ株式会社

530-0005 大阪市北区中之島2-2-7 中之島セントラルタワー

Tel: 06-4706-9683 / 9649 (財務・IR部 IR課直通)

Email: ir@rengo.co.jp

<https://www.rengo.co.jp>